

関連項目：検証改善プラン①、指導体制プラン①

児童理解カード（児童理解及び共通理解）と評価カード（客観的な児童理解）を活用する

目的

本校の児童は、明るく素直で活動を好む子が多い。近年、急激に児童数が増加しており、それにもなって規範意識が希薄な児童が目立つようになってきた。そこで、的確な児童理解と客観的な評価を繰り返すことで、自ら考え行動できる児童を育成すること。

内容

● 児童理解カードの作成・評価カードの作成

- ① 毎月の生徒指導委員会では、各クラスに児童理解カードを作成してもらい、全職員で知っておいてほしい児童について共通理解を図っている。
- ② 毎月の月目標に対して、学級ごとに具体的に組み立てを決めて、学校全体で月目標の達成に向かっている。どのくらい達成できているか評価するために、各学期に1回ずつ評価カードを作成し、学校全体の達成と同時に児童が客観的に自己評価できるようにした。

● 教育活動でのカードの活用

- ① 生徒指導委員会で話し合われたことを学年主任が各学級担任に伝えると同時に生徒指導委員会だよりを配布することで学級担任が児童理解カードを見ながら、気がついたことを他の職員に情報として伝えるようにした。
- ② 月末の1週間で、学級ごとに決めた月目標の調べを評価カードを使ってすることで、客観的に児童が自己評価できると同時に学校全体の達成率がつかめるようにした。

● カードの改善

- ① 何回か生徒指導委員会を行ううちに、話し合いの焦点をしぼると同時に全職員の関わりを明確にするために、そのカードに具体的に【ほしい情報や協力】の項目を追加した。
- ② 各クラスの月目標の反省の取りまとめと評価カードの作成及び配布と全体の集計を生徒指導主事が行うことで確実に評価したり、評価結果をまとめられるようにした。

1学期

6月「チャイムの合図を守ろう」

| | |
|----|-------|
| 1年 | 95.3% |
| 2年 | 78.6% |
| 3年 | 82.3% |
| 4年 | 87.4% |
| 5年 | 80.9% |
| 6年 | 87.3% |
| 特支 | 100% |
| 全体 | 85.3% |

月当番の先生方から

・各クラスのためを毎日確認する手立では効果がありよかった。

・クラスの目標を子どもたちと話し合っただけで決めたことにより、子どもたちの中にも教師の中にも常に目標への意識があつてよかった。

2学期

1月「ろう下の右側を静かに歩こう」

| | |
|----|-------|
| 1年 | 81.1% |
| 2年 | 79.2% |
| 3年 | 74.5% |
| 4年 | 79.6% |
| 5年 | 66.1% |
| 6年 | 70.8% |
| 特支 | 80.0% |
| 全体 | 75.4% |

この目標は、5月の月目標として取り組んだが、指導の徹底がはかかれていないことから、生徒指導委員会で話し合った結果、1月の月目標として、再度指導の徹底をはかることにした。

・全体の児童の自己評価の結果は、75.4%で達成率が悪いように見えるが、どの職員からもきちんとできるようになりつつあると評価を受けている。児童がきちんと自己評価できるようになったために、評価が厳しくなったとも考えられる。

※クラスによって、目標のハードルの高さは違っている。

成果

- ・一度事例としてあがった児童の変容や改善についても以降の生徒指導委員会で報告があがってきた。
- ・各クラスで目標を子どもたちと話し合っただけで決めたことにより、子どもたちと教師の中にも常に目標への意識があり、学校全体で目標の達成の改善がはかれた。自己評価カードを使って客観的な評価をすることで、児童にとっても教師にとっても目に見える形で評価できるので、次の取り組みに見通しがもてるようになった。